

おんじゆく

# 広報

第 13 号

発行所

千葉県夷隅郡御宿町役場

発行者 井上文吉

編集者 東栄蔵

印刷所

株式会社 阿佐商会

千葉市市場町1-4

電話千葉(2)4467・3936



広報は綴つてよみましよう

秋はふるさとのにおい

匆忙半歳

烈日汗を干し

将又

口角泡となし……

暦日定かならざる

日さえありしに

烏兔匆匆

ふと 朝の冷気に

あゝ 秋のにおい

# 無投 票で 新議会議員(22名) 決る

- …合併後初めて、しかも大選挙区によつて行
- …われる予定であつた町議会議員選挙は、
- …定員二十二名に対し、九月三日告示と同時に
- …に二十四名の届出があつたが、六日の受付
- …締切迄に二名の辞退者が出たため無投票
- …で前議員十七名、元議員一名、新議員四
- …名の当選が決つた。新議員の御紹介をか
- …ね議員としての抱負を登載いたしました。



浅野 航海 (再) 63才  
派 侶

再度立候補致しました処町民各位の御賛同を得無投票当選となり再選と成りました事を厚く御礼申上げます。

私は町経済の安定に重点を置き漁港の修築策に努力すると共に道路の整備、農水産の振興、文教の刷新を画すると共に観光面の発展に力を注ぎ、町政の明朗化を計りたい念願であります。町民の皆さんよろしく御後援と共に御協賛下さいます様御願ひ申上ます。



岩瀬千代吉 (再)  
高山田 (再) 59才  
農業

一、借金のない町をつくりたい  
一、一に財源二に仕事  
一、清潔な政治は純真な気持から



定一 (再) 58才  
本保業 久農

先づ第一番に今度の改選に際し絶大なる御支援を賜つた皆さんに厚く御礼申上げると共に、今後益々御指導の程お願い申上げます。新議員として色々と



吉野 二一 (新) 57才  
七本業

抱負もありますが、限りある町財政でありますので、新しい事業は最少限にして、今日まで色々と計画をたてた、例えば合併の際の条件とか今年度新に指定を受けた新農山漁村の建設計画等を完全に実施し、町民の皆様にも約束を果す事が先決であると思います。次は議会運営の強化であります。議会は町長の諮問機関でないの今後一段と議会の自主運営に努力したいと以上二点が私の主な抱負であります。

この度私町民各位の絶大なる御声援と御支援によりまして町議会議員として参画出来ました事は誠に光栄と存じます。元より、町政に關しては資格に乏しい私ではあります、先づ第一町の一端を荷なう産業の振興には道路網の完備、機械化農業への転換等をよく把握して、しかも合理化された農業経営に進みつつある産業助長こそ、吾々に与えられたる大なる課題であると思ひます。又近代化された今



山本 稲直 (新) 58才  
新町無職

日、港湾施設の完備に重点を置くことこそ近海漁業の地として町の財政を豊かにする一助と存じます。その他学校に於ける諸問題或は青少年の体位向上、不良化防止等数々の事業も御座いますが、今後共皆々様の不変の御導きと私の不屈の努力によつて明るい正しい町政に寄与し、皆々様の御期待に添いたいと存じます。

私はこの度の町議会議員選挙に町営住宅の皆様御推薦に甘え不肖を省みず、敢て立候補致し幸いに当選致す事が出来ました。これ一重に町民各位の絶大なる御支援、御同情の賜でありまして、不肖山本衷心感謝申上げます。就而私の抱負として次の事項を實現致し度鋭意努力致す所存であります。  
一、民主政治の確立、明るい町の建設  
二、道路の整備(特に新町市場通り道路の早急整備。地曳橋の完成)  
三、社会福祉の強化



関 龍雄 (再) 55才  
久保 醫師

四、漁港の整備  
五、町営住宅の運営に關し適正なる処理に対する連絡督励  
六、その他議会審議に當りては是々非々を信条としておし進める覚悟であります。

おこがましくも又町議会に於て戴きました。光栄に感ずると共に責任の重大さを痛感いたします。各方面よりの御推薦を幸い、議会に於て戴きまして八年半を過しました。その間校舎の建設、運動場の拡張、町体育大会の開催、公民館の設置、伝染病予防法の徹底、観光事業の重点的整備、道路の改修等、それぞれ意見の開陳を致して参りましたが、今期もこれらの一層整備発展を念願するものであります。尚消防用水の整備、別荘地としての農地開放等々。願わくば先覚諸賢のよりよき指導と青年層のよりよき活動により町財政の充実を来とし、御宿町の飛躍的發展を熱望するものでありますので一層の御鞭撻を願ひます。



井上 利一 (再)  
新町業41才  
理容業

四選の感激を泌々と味わつて居ります。省顧る十二年間の議員としての生き方が如何に皆さんの意に添わなかつたか、つくづくと思ひ知り、また思ひ知らされました。これからは再び一年生議員となつた当初の感激と決意を心とし、且三期間の経験

を最大に活かし、一、議会に於ける自己の立場はあくまで是非々々主義とする。

一、施政は地域、職域、階級的偏重を斥け、町全体のための重点主義をとる。

一、和を尊ぶが故に漸進的な改革を図る。

一、衆愚に組せず、少数といえども正論に味方する。

ことを自己の信条として明るく町政に寄与する事を誓います。



渡辺 清治 (再)  
久保業51才  
土建業

農山漁村の振興と開発

教育文化の徹底  
観光施設の充実



君塚久仁治 (再)  
実谷業64才  
農業

町道の整備拡張並に農山道を開発し、且漁港の改修拡張を計り産業を増進し町民の福利増進に資したい。

学校教育を充実させ特に組合立学校問題を検討し、尚統合後の中学校についても検討したい。



新井 清治 (再)  
上布施業60才  
農業

町村合併後初めの大選挙区の町議戦。実にはすがすがしくのびのびとした感にうたれ重ねて立候補致した次第です。私の理想は充つて民主的な明るい住みよい豊かな町づくりと、且、町の繁栄と町民の皆さんと共に幸福を得たいが目的であります。

それには、一、新農漁村の建設の促進

二、学校教育の向上と青少年教育

三、観光事業と商店街の発展

四、道路港湾の整備拡充  
五、社会福祉の充実強化

以上に重点を置き努力したいと思ひます。



中村 喜一 (再)  
久保業44才  
土建業

町民の皆様方御承知の通り、我が町は過去数年に亘り学校の建設、港湾建設、住宅建設等

広大な大事業を行つた為、現在我が町は四千万という膨大な負債がある今日で御座います。然しながら出来上つた物は一億数千万の固定資産となつて利益、便利を与えている事は私が申すまでも御座いませぬ。

然しながら、こういう膨大な負債のある時、我が町としてこれ以上の負債は出来なと思われまます。尚国家と致しましては融資はして下さらないと思われまますので、この負債を返済しながら重点的町建設を行わなければならぬと思ひます。

尚昭和三十五年度は我が町と致しましては観光に重点を置きまして、観光施設に万全を期し観光客を誘致いたさねばならぬと思ひます。



岩崎栄一郎 (再)  
岩和田業35才  
鉄道員

何事も先づ明瞭であれ、と云う事は私のモットーとするところであります。人は社会的生物である以上、常に会議により事を決める。殊に近代の社会では利害関係が甚しく複雑である。故に各階級間に各職業間に又どのような世論にも耳を傾け、懸案の解決を図らねばならないのである。お互いに各自の立場を明らかにし、各自の意向を了解し、そして協調も又忘れてはならない事である。派閥にとらわれず、事勿れ主義でなく、法理論に立脚し、是非々々で進むことこそ明瞭なる町が建設され、強いては御宿町発展の要素となれることを確信致します。若輩ながらも三年生議員として今後も大いに努力致します。

毎に細部に亘つて研究して来たのである。然るに自治法の改正により、この制度は議会開期中にのみ設置し得ることとなつたので、事実上廢止に等しい現状となつた。

この為、議員の活動範囲は極度にせばめられ、当局提出の議案検討に没頭し諸問題を充分に合議することが出来なくなつた。

一例を挙げるならば予算編成に當つて予算の数字上の合否を見る程度で、その事業其他の内容を考察する余裕がないのである。これでは議会制度の自主性に乏しい。今後我々は時間を惜しまず町民の意志を反映した、ある程度の予算編成ないし研究をして、当局の議案と対照させ町民の福祉の為よき案を作り出したい。

凡そ町政は町民全部のものであること勿論であるが故に、我々は町政と町民との懸け橋としての充分な働きを、たいと思ふ。



長治 神定 (再)  
高山業62才  
農業

従来議会には常任委員制度があつて常によき町政の為各部門



君塚嘉兵衛 (元)  
須賀業53才  
醤油醸造



四ヶ年ぶりで町議会議員に当選致し感慨無量です。新しく一年生から出発し種々研究の上皆様方の御期待にそう様努力致します。宜しく御指導の程をお願い致します。

町政に対する私の意見は町の財政状態を詳細に調査の後日申し上げる予定ですが地曳橋中学校舎の第三期工事須賀海老塚より岩和田港に至る道路は早々に完成したいと思えます。

高観光施設を充実し避暑客の誘致につとめ観光地として発展する様努力致します。



安 夫 (新) 44才  
塚 新 町 製 材 業

町会議員は自ら町民のために奉仕しようとする人士でありますから、その私生活、社会的活動に於て、いささかも私利私慾等があつてはならないと思えます。私利私慾のために出馬して居る日本の総ゆる議員は必らずや自滅するであります。何故なら今や選良は何回もだまされたあげく、その目が肥えて参つたからであります。町会議員は最早や古の旦那式の觀念より

着々脱皮し、真に町民の爲にのみ愛え其の福利を増進せんと念願する人士の集でなくてはならないと思えます。徒に国会、県

議員の醜態を真似、徒党を組み、日夜隠謀に明け暮れ職務をないがしろにし、之が為町政を混乱に陥し入れるが如きは決して町民のプラスとなりません。

私は少年時代、克つて五りん營に学び、伊藤鬼一郎先生の御訓薫を受けその座右の銘として「至誠一貫」を以てその半生たる

軍人生活を貫き、そしてまた今町政に参画し町民の爲に微力を捧ぐる事の出来ますのも偏に先生の御教導の賜と深く信じるものであります。

今後私達議員に課せられたるものは実に隠謀に非ず、派閥に非ず、真にガラス張りの中での正々堂々たる町議会の運営であると信じます。



石 井 文 夫 (再) 50才  
六 軒 町 浴 場 業

新町建設五ヶ年計画及び農山漁村振興計画に基く事業の完全遂行に強力なる推進。私もようやく三期生議員となり

古顔の立場より、責の重大さを痛感する前記の問題に対し全力を奉げたい。所謂一党一派に偏せず、派閥にとらわれず、明朗快活なる町政と健全財政の確立に寄与し依つて議員としての本分を全うしたい。

町民各位の御指導と御鞭撻を願います。



江 沢 富 士 松 (再) 46才  
岩 和 田 協 員 漁 協

今回の町議会議員の改選の結果不肖私も引続き議席の末端を汚がさせて戴く事になりました。

日頃私は議員の職にある者は町民の声を尊重し自己の見識を以つて機会ある毎にその要望を町政に反映させ、それが実現を期すると共に町行政の状況を常に町民に知らし、当局と町民が一体となつて御宿町の発展向上に努力することこそ議員の本分であると確信して居ります。

今後は町の財政の健全化をはかる為めに、凡費を節約して事業費に廻し、他面地方自治体によりよく育成する様な地方財政制度の改善に努力致す積りで御座

います。また現在の御宿町の予算規模を八千万円内至一億円程度の規模にして漁業、農業の振興、道路の整備を重点において施策したいと考えております。



吉 藏 (再) 59才  
式 田 浜 農 業

今度御宿町議会議員選挙にあたり、不肖私は浅学非才をもちへりみず三度立候補を致しました。御案内の通り私の職業は農業であります。子供は漁業に従業であります。子供は漁業に従業であります。子供は漁業に従業であります。

職業は農場であり、漁場でありますので農民漁民の皆様と同様には箱をふみ夕には星をいただいて帰る重労働であります。私共は働けど働けどなお生活にあえいで居る有様は皆様と同様であります。

そこで私は産業を基盤と致し農業経営改善施設拡充、漁港整備水産業組織の強化、産業教育の改良等に意を以て生産の実をあげ、以て町民全体の福祉に配慮する決意であります。今後いよいよ皆様方の一段の御協力を御願ひ申上げます。

心は一つ  
人間というものはなかく、約束が守れないものだ。それは他人と約束が守れないのでなく自分自身との約束が守れないのだ。心の強さだと思ふ。私は今日から好きな「タバコ」を一年間止めて見る決心をした。これが守られるなら自分の心も自分で信用する。「タバコ」止める位は小さな約束だが、この心は大きな約束もするのだ。「心は一つ」だ。  
尺八もブービー三年でいくらか音色も出るそうだが、私もこれで三期生だから少しは議員らしい音色も出そうなもんだし、町民の方も私を相談相手として下さる事を希望しているのだが、隘口は止めて頂いて今後は皆様と相談で「明るい御宿」を築き度いと考えて居ります。



藤 江 真 一 (再) 53才  
六 軒 町 主 食 販 売 業



市 東 三 郎 (再) 42才  
岩 和 田 協 理 事 漁 協

乏しい町財政の重点的使用に

協力致したい。尚原始産業(農漁)の振興が急務と信じます。



吉野 栄峯(新)  
上布施 農業・56才

私達の御宿町は小さくまとまった風光明媚な平和な町ですが自治体としての運営面に於ては年々増加する町債、県下平均を下廻る自主財源、経済的自立の度合の低い産業等問題を多く含んでいます。

是等を考えて先づ農業を盛にし生産を高め、特殊産業の開発を促進したい。  
次は道路、橋梁の整備を促し、町内の道路網を拡充整備して至便な心地よい道路にしたい。

尚教育施設の充実と、社会教育の振興特に公民館活動を盛にしたい。又観光資源を開発し、施設を充実して受入態勢を良好(物心両面)にしたい。  
最後に純朴な町民性の温存と生活の合理化を進めたい。



吉野 要  
新町(再)  
薬剤師47才

一、明朗な町政を続行して行くことに努めたい。それには、町当局、議会等は勿論全町民の意思が充分に疏通する様な方法を講じ、また現在停滞している中学校に関する諸問題の理解策の推進を計り、明るい町造りに努力する。

一、町は約三千万円の負債があるがそれほど悲観すべきものではないと考える。然し財政面で相当に制約されることは当然であるので、我々は重点的に施策を推して逐次諸産業の発展。

町道(勿論農道、林道を含む)の整備。港の整備。観光資源の開発と整備。中学校々舎の増築と整備。商工業の発展策等に一致協力する。

日本の電話事業は?

わが国の電話は昭和二十八年(三十二年)度の五ヶ年計画達成の非常な努力で戦前最高時の二倍半、世界第五位になつたが、人口に対比するとまだ二十一番目という実状である。



長生きしてほんによかつた

喜こびにあふれる顔顔顔

九月十五日は「としよりの日」

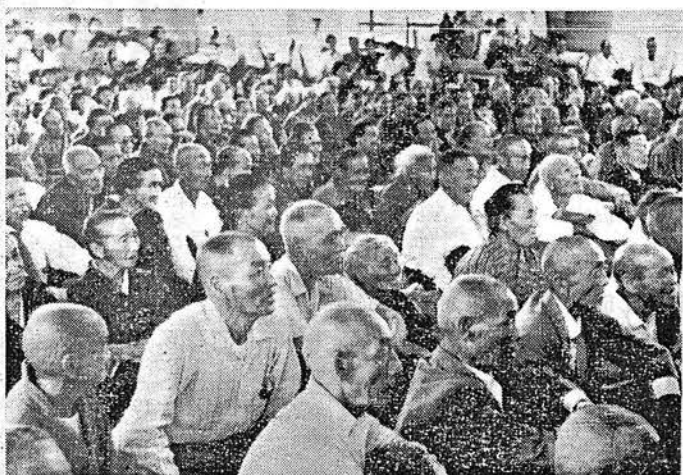
すぎました。

町では七十才以上の人達を高等学校の講堂によんで敬老会を開きました。

現在御宿町には七十才以上の人が五百三十人、八十才以上の人が八十人、九十才以上の人が三人もおります。

戦後人間の寿命はぐんぐんのびて、昨年の平均寿命は男六十四・九才、女六十九・四才となつて人生七十年にあと一歩と近

め来賓の方達よりお祝いの言葉をうけたり、おしほいやおどりに楽しい一時を過し、ほんとは長生きしてよかつたと満足して帰りました。



浜

君塚 さつ

九十五才

◎九十才以上高令者

尚九十才以上の人と結婚五十年目を迎えた方達は次の通りです。

岩和田 早川 かつ 九十四才  
久保 高梨 すけ 九十才



御宿町最高年令者  
君塚さつ(95才) さん

◎結婚五十年を迎えた人

夫 妻

- 六軒町 堺 重兵衛 堺 もと
- 新町 吉野 谷蔵 吉野ちあ
- 須田 弥八 須田こよ
- 久保 井上弥惣七 井上ちよ
- 須賀 鶴岡富之助 鶴岡りつ
- 浜 石井 半七 石井れん
- 新町 渡辺半次郎 渡辺とめ
- 岩和田 土屋 文蔵 土屋せき
- 加田 長七 加田かね
- 加藤市五郎 加藤とめ
- 君塚 市蔵 君塚かん
- 実谷 吉野 善吾 吉野ツギ
- 吉野 庄蔵 吉野ふ志

【写真上】

笑顔で演芸にみいる老人達



### 国保はあなたの健康を守る

皆さんの国民健康保険はどの様に運営されているか。

昭和三十三年度の報告書から主な点のみをみると次の様になり、いかに多く利用されているかがわかる。

× × ×

被保険者の状況は：現在御宿町には二千十五の世帯があり、この内社会保険や生活保護世帯を除く千四百九十七世帯が国保に加入しています。

国保の利用状況は……。

第一表に示す通り、町よりお医者さんに支払った額、赤ちやんが生れた時の助産費、家族の内でなくなつた場合に出す葬祭費を合計すると総額で五百九十三万四千円になります。

一人が年に一・九回病気にかかる

本表の受診率を見ると(件数を被保険者(何れも延)で割つたもの)一人が年に一・九回以上病にかかつたことになる。この外被保険者より除外されている人の分を加えると、この率はもつともつと上廻る事でしょう。

う。

病気をすれば八千円かかる

これを医療費よりみると入院すると一回七千二百二十円、入院外六百四十二円、歯科五百四十三円、療養費、即ち県外の医者にかかつたら三千六百四十八円となり、平均して病氣一回には八百八十四円を要することになり、これを一世帯平均にすると八千二百六十円という莫大な額になります。

病氣一回は何日かかるか

病氣一回当りの日数は四・七日かかることになりました。

一日当りの金額は百八十四円

何れも医療費が家庭経済に大きな負担となつてることが伺われます。

この様に皆様の国保は病気を早く見付け、早くなおし、更に医療費の軽減をはかり皆様に安易にお医者さんにかかれる制度でありますので皆様の協力によつて大いに育てていただき度いものです。

最後に被保険者の皆様に知つて頂き度いこと

- 1、お医者さんに診てもらつた時は必ず保険証をもつていくこと。
- 2、県内は全部保険証が使えま

すが、県外のお医者さんにかかるときは必ず役場に届けること。

4、出生の場合助産費として五百円支給致します。

3、家族の内転入、転出、死亡、婚姻、社会保険加入、脱退等の異動がありましたら、保険証持参の上役場に届出ること。

5、保険税は必ず納めること。  
6、その他不明の点はどしどし役場厚生課までお申下さい。

第一表 (昭和33年度実績)

区 分	件 数	日 数	費用額	町負担分		人 分	他 分	一件当り		一件当り
				千円	千円			円	日	
一般診療	入院	494	8,703	3,566	1,638	1,638	290	7,220	17.6	410
	入院外	11,723	51,054	7,533	3,570	3,570	393	642	4.3	147
歯科		1,650	5,516	895	448	447		543	3.3	162
薬剤の支給		5	—	2	1	1		400		
計		13,872	65,273	11,996	5,657	5,656	683	865	4.7	184
療養費		101	—	368	184	184		—	3.648	—
小計		13,973	—	12,364	5,841	5,840	683	884		
助産費		103	—	—	52	—		—		
葬祭費		83	—	—	41	—		—		
合計		14,159	—	—	5,934	—		—		
受診率		192.52%								



第 3 回

ヒント 広報をよんで下さい。

問 今度選ばれた、町議会議員は何名ですか。

☆ 賞品提供者

○ ムラヤマ時計店

○ 御宿町選挙管理委員会

○ 役 場

正解者に右者より賞品が贈られます。(正解者多数の時は抽せんによる)

締切 十月三十日

あて先 役場広報係。応募用紙は自由

発表 次号の本紙

▽先号の答

一区にわけた。

▽正解者多数のため抽せんで次の人に賞品をさしあげます。

- 新町 藤江 誠
- 新町 西川 陽子
- 須賀 遠山 道夫





町民と町を結び、広範囲な広報活動を行うためと火災、災害に備えて、消防指揮車、広報車兼用の「コロナ号」を購入した。

車は前面に赤ランプ、サイレン、上部にスピーカー、又特殊照明燈を備えている。

すでにいろいろな面で活躍しているが、今後、火災時の消火指揮、広報活動はもちろん、納税相談、予防注射等あらゆる面で皆さんにおめみえ致しますのでよろしくおねがい致します。

神崎巡査

今須賀区、御宿橋の手前に駐在所の建築を急いでいるが、この土地の埋立てにあたり、町にばかり迷惑はかけられないと、大原警察署長さんみずからスコップを持ち、毎日土工人夫顔負けの働きぶりで埋立てを完了、今どきめずらしい署長さんと皆んなを感心させた。



# 汗の結晶で埋立てを完了

## 大きい協力の精神

小幡部落では昭和三十二年より林道加賀谷線の工事に着手、以来二ケ年に亘り、部落民の一致協力で全長一、三〇〇メートルの道路を去る三月完成した。この間部落の人達は自己の損得を考えず、私財をなげ出し、細心の注意をもつて工事に当たった。

この事が認められて、九月十六日県林道協会通常総会の席上、模範的林道である、と会長川口為之助氏より表彰された。

## 日本電子工業振興会に

### 人工頭脳センター

旅行案内、計算、資料の整理など多くの人手、時間を要する仕事をサツと片づけてくれる人工頭脳センターが誕生した。

旅行の部で「一八〇〇円一泊旅行はどこか」とカードに書き込むと一分位で「ママズ、シラハマ、ナガオカ」と旅費宿泊代が出てくる。ために「無銭旅行は」と書き込んだら「ワカヤノフロデガマンシロ」とご名答。



## 広報統計

△歯磨の習慣

毎日磨くもの

男 五四・六七％  
女 六五・七二％

時々磨くもの

男 一九・七二％  
女 一五・五一％

磨かないもの

男 二四・九九％  
女 一八・〇五％

不詳

男 〇・六一％  
女 〇・七二％

(昭和33年11月・厚生省調)



## すいかわり

御小二年 村田とおる

みんなとすいかわりをした  
一ばんはぼく

てぬぐいで目かくしをした  
そろそろあるいて行つて

ちからいつばいたたいでも  
われなかつた

おにいちやんがやつたら  
一ぱつてわれてしまつた

中がまつかだつた  
ぼくはむしゃくしゃたべちゃつた

すごくおいしかつた



# 荒磯物語 (3)

鶴岡節雄

あらすじ

△その頃の岩和田は人口二百そこそこの寒村にすぎなかつた。

そこに峯蔵の家もあつた。峯蔵は妻をなくしてからすつかり老けこんでしまつたが、一人娘のお千代と静かな暮しを續けていた。

その年の夏、大しげがあり、一人の若者が海辺にたおれていたので峯蔵が家にかつきこみお千代にだかせて一命を救つたが、お千代はこの男を一見して愛してしまつた。

△慶長十四年九月末日のこと、一晚中暴風雨があれくるつた。

夜明けに、お千代が田尻の浦に行くとそこにはただならぬことがおきていた。

フイリツピン諸島長官ドン・ロドリゴの乗船サンフランシスコ号が遭難し、乗組員三百余人が助けを求めていたのだ。村人の力で遭難者を大宮寺に収容し、全員を助けることが出きた。

初冬の陽はすでに山の端に沈んで風が氷るばかりであつた。びくの獲物は少なかつた。「お千代が待つているでしょう。引きあげましょうや」鼻みずをすすりあげて峯蔵が言つた。峯蔵の落ちかけた肩先がいたいほど強く小兵衛の胸をうつた。と

そのとき小兵衛にある決心がわいていた。それは小兵衛にもよくわからないがとにかく父太兵衛の気持にも通じ、お千代が持つているお千代にも気がつかない美しい広い心に通ずるような気がした。

小兵衛が峯蔵の処から姿を消したのはスペイン人一行が大喜にたつ朝のことであつた。

寒村の岩和田も此日ばかりは沸きかえつていた。藩主本多忠朝から派遣された南蛮船検使役柳田平兵衛、小鹿主馬、山本忠右衛門、大原惣右衛門などが長銃、長刀、さては鎗隊を従えてぞくぞくと乗りこんできた。大

宮寺から一時酒宴のどよめきがおこり、やがて姿儀を正した隊列が動きだした。お千代は村の群集からひとり離れて裏山の砂丘の上からそれを見送つて

いた。速くからでもそれとわかる緞子に金糸、絹糸のまばゆい繡をきた異人が四人、一番先頭に立つのがロドリゴなのだろう。領主のはなむけの衣服をまとつ

ているに違いない。そのあとにはまぢまぢの服装をした異人がゾロゾロとつづいた。村人が恵んだままの服装なのだ。お千代がだいてやつた異人もその中の一人なのだがここからではそれはわかるはずもない。ワアツと

一しきりかん声があつた。「お千代さん。有難う。御親切ねません」お千代はかたことまじりの異人がこの砂丘をかけ上つてきたこともあつたなどとおもつたりした。隊列が竹之谷の出口をふさぐ浅間森の砂丘のかげにかくれてしまつたお千代にこらえきれない悲しみがおしよせて来た。「小兵衛さん」はらわ

たをしほるようなお千代の叫びがあつたのとお千代が部落の方へかけ出したのは同時だつた。それを追いかけて一陣の風がおこり、それにつられてくるくと砂塵が舞上つた。お千代のこのした足あとから砂丘の底へとめどなく砂が流れだして

いた。砂丘の谷間に静かに沈むものさびた大宮寺の鶯。ひつそりと眠る岩和田の部落。死んだようなこの村にもまた春はめぐつてきていた。

お千代が小兵衛と語りつた砂丘にもかげろろがたつようになつていた。異人のうわさはときおりこの村にたえられたが、この村に小兵衛という男がいたことなどもう誰一人思出すものはないなかつた。

峯蔵は又めつきり老けこんでお千代の細腕には一家のくらしはいよいよよつらくなつていた。磯開きの時季が近づくと、お千代は「私、金太の船にのせてもらう。腰もくりではどうにもならないんだもの」ようやく思い決して峯蔵に言つた。一日中ぼんやりろり端をはなれない峯蔵がそれでも不きげんに「金太

か」と首をあげた。それがどんな結果になるかお千代にはよくわかるのだが、お千代はそれよりほかにしかたがないとおもつた。

お千代は意を決して金太の船に乗つた。岬のかげに見えかくれする岩和田の部落がふわふわとひどく安定を欠いた感じでみえた。櫓の手をおいた金太が後から不意にお千代の肩を叩いた。

「小兵衛さんか。お千代あきらめな、どこの馬の骨だかわかりもしない男をよ。金太がついているじやないか、冷えたら、金太さんがおまぢかねさ」と真顔で言つた。

「ほか」そばのお照が目顔で金太をたしなめた。南蛮船の折れたマスト、切れ切れの帆綱がすぐ目の前に見えてきた。お千代はそつと船べりから手をのぼした。春の潮はまだしびれる位冷い。一組の海女はもう仕事にとりかかつている。ぱたりと一つ片足を動かすだけでそのまま沈んでいく。声というものがなく生きることに真剣さが切ないほどお千代の胸をしめつけた。お千代はお照に教えられて息をこらえて沈ん



だ。色とりどりの海草の林、その花園の奥に一きわ大輪の百合花が咲いているとみえたのは、いせえびだつた。目の前にせまつた巖は笠くらいもある大砲の山であつた。お千代はただおどろくばかり。そしてついむりをした。ふらふらと水面に浮び上るとお照のきびしい目と合つた。「死んでしまふよ。お千代」傍によつてきたお照にお千代はいたいほど頭をこずかれた。お照はお千代をこずきながら笑つていた。

峯藏も早く寝てしまつてお千代の家には相変らず寂しい一日が暮れた。お千代はふと誰かが呼んでいるのではないかとおもつた。低い声なのではつきりしない。お千代ははつとした。こにとよると金太かも知れない。金太に違いない。お千代は不安な気持で戸をあけた。が、それは金太ではなかつた。二人の見馴れぬ男が戸口に立つていた。一人は立派な服装をした武士であつた。「小兵衛」お千代は思はず大きな声をだしてしまつた。が、その小兵衛に相違ない立派な武士風の男は静かに笑つただけでただ無言であつた。そして傍の男が代つて言つた。

「どんな急用があるので、すぐに立立しなればならないのです。私が一切申しつかりました。あとでゆつくりお話しいたします。それではどんなこれで。」というとその武士風の男はお千代に一礼するようにそつと頭をたれると忽ち暗い夜の中へ消えていつてしまつた。あつというまの出来事であつた。

翌日。峯藏をともなつた昨夜の男が港の方へ急いでいた。「わしは紀州もんだが、こんどというこんどはえらくだんなの世話になつてしまつた。舟をもらうやら。この土地えつれてきてもらつたりして」と独り言を言つた。峯藏は昨夜一晩中お千代に泣きつされたことが身に感えていた。峯藏はその男の言葉聞きとがめるともう一度しつようにその男に祈るばかりに聞



いた。だ。す  
「だんなではわからない。だんなではわしのたつ瀬がない。わしを苦しめないでくれ。わしら父娘をたすけると思つてそのだんなの名前ををしえてくれ」峯藏は必死であつた。しかしその

くとその男は「この舟をわたしてくれとたのまれたのでね」と言う別の舟にとびのり、その舟ぞこから何やらとりだした。「延縄だ。これをあづかつてい」と峯藏に言つた。「このあたりの海はこの延縄にかぎるとだんなが教えてくれた。わしも当分この土地でくらすつもりだ」男はそんなことを言つた。そして紀州ものの男はほんとにそのまま岩和田に住みついてしまつた。

峯藏はその男と海へ出て延縄を教へてもらつた。八手網という大きな沖網を張る一団が近いうち泉州からくるかも知れないと男は言つた。そしてそんな仲間にはならずや武士くずれもかなりまじつているとも言つた。それはみんなそのだんなから聞いた話なのだろう。が、峯藏が一番知りたい小兵衛の消息はどうしてもわからなかつた。夏になるとまた幾組かの他國者が流れてきて漁を始めた。

峯藏はそれらの人たちの間も次々とたずね歩いたが小兵衛の消息は一向にわからなかつた。堺の港で会つたのがその小兵衛さんという人だつたかも知れないなどとまことししやかに教へて

くれる人もないではなかつたがあまりあてにはならなかつた。

お盆の魂送りの宵がきた。村の小川に村人が集まつて流す灯籠がこちらの霞群、こちらの霞群から音もなく流された。川はさらさらと流れて部落の内外れの砂丘をまはつて海に注ぐ。そこまで流れて行くうちに命のつきはてるように消えるものもあれば、心ない風に消されるものもあつた。砂丘の出はずれに流れつく頃は灯影のいよいよ淡くなつた灯籠が互に寄りそつて一ところに集る。お千代は何年かそうして母の灯を送つてきた。「お母さん」お千代の流した母の灯籠が急にかき消えるとお千代は思はず流れの中にもふみこんで叫んだ。四方には人影もなく腹を渡るかすかな風があるばかりであつた。お千代はそのとき或は「小兵衛さん」と叫んだのかも知れない。が、お千代にそれはわからなかつた。お千代は突然後から強くだきしめられた。男の熱い息がお千代をよろしやなくおさへつけた。

いよいよ江戸回船を始めた金太

の家に其の頃から金太の姿がきつぱり見られなくなつた。なんでも江戸へ出たまま帰らないのだということだつた。

奥津村、鶴原村、新官村、部原、浜村、さては小浜村。いたるところの浦々につきものにつ

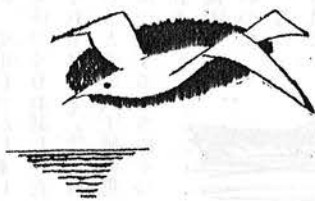
かれたように歩きまわるお千代のうわさがパツと一時に広がつた。しかし、小兵衛を知つてい

る者はいなかつた。  
お千代が見たのはたしかに小兵衛であつたかも知れないが、又全くの別人だつたかも知れない。

夏もゆきまた秋がきていた。静かな日がつづくと峯藏の家のまわりの砂丘に血のような瑩珠沙花が燃えた。丁度其の頃、川津の岬をはなれて北上する一そ

きらきらと輝く海を背に延程の精いをするのかたえす糸を繰つてゐる峯藏の姿が塑像のようにぼつねんと澄んでいた。お千代の姿はどこにも見えなかつた。(終)

この物語は南蛮船漂着の史実をもとにしてはいるが登場人物のお千代、小兵衛等はすべて想像の人物であつて、いわゆる歴史小説ではないかも知れない。さりとして私はこの物語を単なる空想とも考えたくない。歴史的真実はこのされたわずかばかりの歴史的事実をいくら綴り合せたからとて再現できるものでないと信ずるからである。



御宿俳壇

- さびれたる浜の店ありいわし雲  
夏草や河はゆたかに流れるて  
冷しある西瓜の丸み大らかに  
紫陽花の明るさをもて暮れきらす  
夏風邪の脈ずき胸診られをる  
向日葵のぼろの如くに夏終る  
浜風の荒きに蛇の迷ひ居り  
浅間路や野葡萄の原見て過ぐる  
足早にうす雲流る望の月  
高層のビル立ち並び翳雲  
みどり児を抱く父若き良夜かな  
弱り行く視力秋燕見失ふ  
避暑客の漁夫にまじりて地曳ひく  
せみしぐれあびて故山に墓参する  
磯山にぬれ衣干して海女裸  
避暑客の引あげ常の日傭一家  
夕風やドカと裸の大あくら  
夏期赤字温泉旅行おながれに  
海の家の木札取られて秋暑し  
朝市や西瓜の山に切り西瓜  
スピッツの遊ぶにまかせ露の路  
迎火やなほ海鳴のなりやまず  
ふるさとの訛なつかし赤トンボ  
穂芒を越えて怒濤の海のあり  
榎ほして静かに秋の深まりぬ
- 岩瀬京子
- 伊藤よしを
- 原田光子
- 土井久恵
- 吉野鶴女
- 山田木念人
- 浅野松山
- 佐々まさ
- 山口つる

あとがき

☆二十二名の新議員が決つた。議員は皆さんの代表でありますから、町政についていろいろと御意見を出し、町民一町議一町政と常に密接な関係にありたいものです。  
☆フイリツピン諸島長官ドン・ロドリゴの乗船サンフランシスコ号遭難当時の史実をもとにした歴史小説「荒磯物語」は好評の内に本号を以て完結しました。執筆下さつた鹿岡先生に厚く御礼申し上げます。  
☆みりりの秋を迎え農家のみなさんにはもう收穫のよるこびがただよつてゐる事と思ひます。お米の代金は一度にどつと入りますが年に二回も三回もありませんから、よく考えてより良い生活のために少しでもプラスになるよう充分な計画を立てて下さい。  
☆十七日は仲秋の名月、ソ連のロケット到着も知らぬ氣にまんまるいきれいな姿を見せてくれたが、お月様も内心、さぞびつくりした事だろう。科学は刻々と進歩し、宇宙旅行も夢ではなくなつた。私達も世の進歩にとりこされないう、広い気持ちで日常生活を処して行きたいと思う。(E・A)